

人々の笑顔があふれる「地域づくり」を応援する

地域づくりinほくりく

2016 AUTUMN



「やすらぎ堤」

絵 土田 和男

信濃川水門から萬代橋までの緩い勾配の堤防が「やすらぎ堤」である。
右岸側は県庁、左岸側は白山公園と隣接し、散策スペースとしても活用
され、花火の観覧席としても好評である。

❖ 随 想

2

栗島 康夫(富山ライトレール(株)代表取締役社長)
富山ライトレール開業10周年
ポータルが地域をつなぐ、人をつなぐ、夢をつなぐ

❖ 特別企画

4

ミズベリング信濃川やすらぎ堤
-市民・企業・行政が一体となった新しい水辺のにぎわいづくり-
北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所

❖ 特集「地域とともに」

8

産官学金民連携で地域の課題解決
-ソルガムが拓く地域自立型循環モデルの
普及体制の確立に向けて-
信州大学・長野市共同事業

❖ シリーズ「次世代に向けた地域の魅力づくり」

12

山里 発 新しい「クニ」づくり
NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部
(新潟県上越市)

❖ 北陸再発見

14

素材の味を引き立てる会津山塩
(福島県北塩原村)

❖ 伝言板

16

富山ライトレール開業 10 周年 ポートラムが地域をつなぐ、人をつなぐ、夢をつなぐ



あわしま やすお
栗島 康夫

富山ライトレール(株) 代表取締役社長

1953 年富山県富山市生まれ。1978 年金沢大学工学部卒業。同年富山市役所へ。都市計画課長、交通政策課長、都市整備部長などを経て 2013 年 6 月より現職。

1 開業の日

平成 18 年 4 月 29 日の祝日は早朝から雲ひとつない青空が広がっていました。5 時 57 分発の 1 番電車の発車を待つ多くのお客様が全国から集まりました。

そして、定員 80 人の車両になんと約 120 人が乗りこんで 1 番電車が発車いたしました。我が国初の本格的 LRT (次世代型路面電車システム)『富山ライトレール (車両の愛称: ポートラム)』の開業です。



開業に沸く終点岩瀬浜駅

思い起こしますと、J R 富山港線の LRT 化構想が発表されてから約 3 年という異例の短い期間で、関係機関、地元企業、沿線住民の皆様のご支援・ご協力により開業することが出来、その後大きな事故もなく現在に至っております。

2 これまでの利用状況

開業後は、J R 富山港線であった時期と比べて、予想をはるかに上回る数の皆様にご利用いただいております。特に、昨年度は北陸新幹線

の開業効果もあり、開業以来初めて年間輸送人員が 200 万人を突破いたしました。

これまでの総輸送人員は平成 27 年度末で約 1,923 万人に達しており、1 日当たりに換算いたしますと約 5,300 人となります。また、車両の総走行距離は約 363 万 3 千 km と地球を約 80 周したことになります。

本路線は通勤・通学を主体とした生活路線であります。日中は観光のお客様や沿線の高齢者のお出かけの移動手段として使われています。特に休日のお客様の 3 分の 1 が 65 歳以上となっております。

3 ポートラムの特徴

本路線は J R 富山駅から富山湾近くの港町である岩瀬浜までの延長が 7.6km の路線で、うち軌道区間が 1.1km、鉄道区間が 6.5km の単線路線となっており、この間に 13 の駅があります。



白地に 7 色のレインボーカラーがアクセントとなっている外観デザインのポートラムは、高齢者の皆様やお子様、障害のある方などにも優しいユニバーサルデザインの車両となっております。

ります。そして、車両や駅施設の段差解消だけでなく、ポートラムアテンダントが乗務してお客様の乗降や沿線の観光案内などのお世話をさせていただいております。



ポートラムアテンダント

また、四季折々のイベント等にちなんだラッピングを施した車両の運行を継続してまいりました。10年経った今もお客様から「私たちの気持ちを華やかにしてくれる」と好評をいただいております。

富山市の公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりのリーディングプロジェクトとして開業した富山ライトレールは、おしゃれなポートラムの走る風景が市民の誇りを醸成するなど富山市の都市イメージを高めることにも寄与していると考えております。

4 開業 10 周年を迎えて



ドリームポートラム 2016

今年度は年間を通じてさまざまな開業 10 周年の記念事業を開催しており、この節目をお客様と一緒に祝うとともに、更なる 10 年に向けた第一歩を踏み出してまいりたいと考えております。

ポートラムと同じ富山市内の 10 歳の小学生約 800 人から寄せられた『夢』を、それぞれ

8 cm 四方のシートに印刷して車両にラッピングし、お客様の『夢』が将来につながるようにという思いを込めて『ドリームポートラム 2016』をそれぞれ 4 月末から 8 月末まで運行いたしました。

このほか、「富山市の広報キャラクターとサンリオのハローキティちゃんなどをラッピングした車両」や「車内を富山県産の花で飾った車両」を 7 月中旬から 8 月中旬にかけて運行し多くのお客様に楽しんでいただきました。

5 今後の目標

平成 27 年 12 月には軌道運送高度化実施計画の国土交通大臣認定をいただき、全車両と軌道区間の施設を富山市に移管いたしました。このことで、施設の整備費や固定資産税などの負担が軽減されることになりました。

今後は、安定運行の維持や更なる利便性の確保のため、軌道の一部複線化事業や北陸新幹線富山駅高架下までの軌道延伸事業、そして既に JR 富山駅南口広場に乗り入れが完了している市内電車との接続事業等を予定しており、概ね平成 32 年春頃の完成を目指しております。

これらが完成いたしますと、本路線沿線から中心商業地区に乗り換えることなく直通で乗車していただくことができます。いましばらく年数がかかりますが、鋭意事業の推進に努めてまいります。

公共交通の役割は地域と地域をつなぐことでありますが、10 年の流れの中で、日中のお出かけのお客様の交流空間にもなっております。「音信の途絶えていた友人にポートラム車内で偶然出会えた」、「初対面の人と座席シートに向かい合って座ったことで会話が弾み友人関係に結びついた」などの声が寄せられております。

地域をつなぎ、人をつなぎ、更にはお客様の夢が将来につながるようにという願いを込めて今後もポートラムを運行してまいります。ポートラムファンを増やし、地域の方、県外・国外の方で賑わう公共交通になりたいと考えております。

ミズベリング信濃川やすらぎ堤 —市民・企業・行政が一体となった 新しい水辺のにぎわいづくり—

国土交通省 北陸地方整備局
信濃川下流河川事務所

1. ミズベリングとは

川には自然があり、歴史があり、そこに集う人々の心を安らげ、豊かにする魅力があります。川を地域の宝とし、価値を更に活かすことで、その地域はもっと生き活きと元気になることができます。

「ミズベリング」とは、「水辺+RING（輪）」、「水辺+R（リノベーション）+ING（進行形）」の造語で、身近なニューフロンティアとして川を活かし、多様な主体（市民と企業、行政等）が相互に連携することで、新たなソーシャルデザインを生み出し、水辺から地域活性化を実現しようとする活動です。国土交通省は、川が地域の宝としての役割を果たせるよう、ミズベリングの活動の支援を行っています。

ミズベを様々な方法で活用し、全国各地で地域活性化が進む中、「新潟の更なる魅力・活力の向上」という高い志を持ち、信濃川やすらぎ堤の活用に頑張っている取り組みについて紹介します。

2. 信濃川やすらぎ堤の概要・特性

信濃川は「日本一長い」（幹線流路延長 367 km）だけでなく、年間総流出量（162 億 m^3 ）も日本で、流域面積（11,900 km^2 ）が日本 3 位の、まさに大河として、新潟のシンボル・誇りとされています¹⁾。

信濃川は、新潟県燕市付近で大河津分水路に分派した後、本川は越後平野を流下し、最下流部「やすらぎ堤」区間で新潟市中心部を経て日本海に流れます（写真-1）。

今年は、大河津分水建設の契機となった明治 29 年の大洪水「横田切れ」から 120 年の節目の年です。大河津分水の社会・経済的効果（ストック効果）は膨大です。洪水時には分派点の大河津洗堰を閉め、上・中流部から流れてくる洪水



の全量を大河津分水路に流すため、大河津洗堰下流域の洪水量・水害頻度は激減し、越後平野の治水安全度は格段に向上しました。その結果、高速道路や新幹線が整備され、安定した社会・経済活動が可能になりました。



写真-1 信濃川最下流部

また、信濃川流域の埋立により、川幅が狭められ、新潟市中心部に新たな土地が生み出されました。現在、「やすらぎ堤」区間の背後がビジネス街、ショッピング街等として賑わっていますが、これも大河津分水のお陰と言えます。

そのやすらぎ堤は、国の重要文化財であり新潟のシンボルとして愛されている「萬代橋」から信濃川水門までの 4.5 km の区間で、洪水による被害を防ぐことに加え、豊かな水辺環境の創出に配慮した、全国初となる 5 割勾配の緩やかな斜面をもつ堤防です。昭和 62 年頃から整備され、堤防整備率は約 8 割で、現在も整備を行っています（写真-2）。



写真-2 やすらぎ堤の整備状況

やすらぎ堤は、新潟市により公園緑地等として、ほとんどの区間の堤防天端（堤防の一番高い部分）と居住地側法面が占用され、堤防天端

幅を広げる^{はらづけもりど}腹付盛土がされる等、利用に適した形となっています(図-1)。

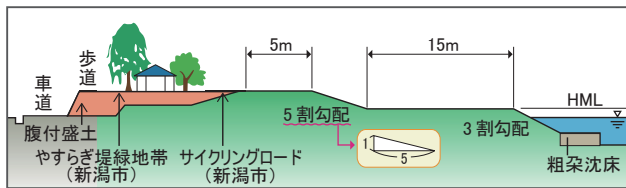


図-1 やすらぎ堤のイメージ図

新潟市の中心市街地のショッピング街・ビジネス街・マンション等の住宅街が隣接する一方、やすらぎ堤の芝生と信濃川のゆったり流れる水面により素敵な空間となって、マンションの住民の「庭」として、近隣住民の散歩・ランニングコース等、憩いの場として、愛され利用されています(写真-3)。



写真-3 やすらぎ堤の利用状況

3. ミズベリング信濃川やすらぎ堤プロジェクト

(1) 行政主導のイベント等による利用

普段から利用度の高いやすらぎ堤を使い、新潟の更なる賑わいづくりのため、これまで行政が主導・関与して、信濃川感謝祭やすらぎ堤川まつり、まちなかアウトドア、まちなか子どもピクニック等のイベント、「サンセットカフェ」の試行的出店等が実施されてきました(写真-4, 5)。



写真-4 信濃川感謝祭やすらぎ堤川まつり

これらの地道で着実な取り組みにより、イベント件数や利用者数が増えてきたことに加え、施設設置や管理の方法、騒音・ゴミの処理、食の安全、営業時間等のノウハウが蓄積され、隣接マンション等の周辺住民の理解も醸成されてきたものと考えます。



写真-5 サンセットカフェと萬代橋

(2) 「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」始動

そのような中、平成23年に河川敷地占用許可準則が改正され、「都市・地域再生等利用区域」の指定を受けることで、河川区域での民間事業者の企業活動が可能になり、また、全国的にミズベリングプロジェクトが動き出しました。大阪(道頓堀川)、広島(京橋川)等の先進地の状況を参考にしながら、やすらぎ堤でも、これまでのミズベを活かす取り組みの実績があるので、出来るはずだと関係者が立ち上がりました。

まずは、『みんなで描こうやすらぎ堤の未来』をテーマに、約120名の参加のもと「ミズベリング信濃川やすらぎ堤会議」を開催(H27.1.31、H28.3.5)し、大阪の事例を学び、目指す方向性・利活用方法・やすらぎ堤ブランドの必要性・仲間を増やし続ける仕組み等を語り合い、新たな活用を目指し、様々な利用者が連携して積極的に挑戦していくことを誓い合いました(写真-6)。



写真-6 ミズベリング信濃川やすらぎ堤会議

これを受け、やすらぎ堤区間の都市・地域再生等利用区域の指定も含め、やすらぎ堤での賑わい活動を実施・誘致するための事業に関する研究を行う民間組織として、「ミズベリングやすらぎ堤研究会」（以下「研究会」）がH27.2に発足しました。H28.8時点で7回開催し、現在も継続しています。

研究会では、エリアマネジメントやイベント・店舗営業の方向性・具体のアクションの検討・調整が進められました。民間事業者等から情報収集がなされ、実情・見込みが把握されてきました。

その結果、初年度は、試行的に、エリアマネジメントを研究会が占用主体の新潟市と連携して実施（図-2）²⁾ し、これまでのイベント・出店者に配慮しつつも、とにかく民間事業者の出店等の希望者を募ることとなりました。

並行して、「やすらぎ堤デザイン検討委員会」で整備とデザインの方針として、やすらぎ堤のブランド力向上にも繋がる、「賑わいにあふれたより良い水辺空間の創出のための考え方」がH27.11に取りまとめられました³⁾。

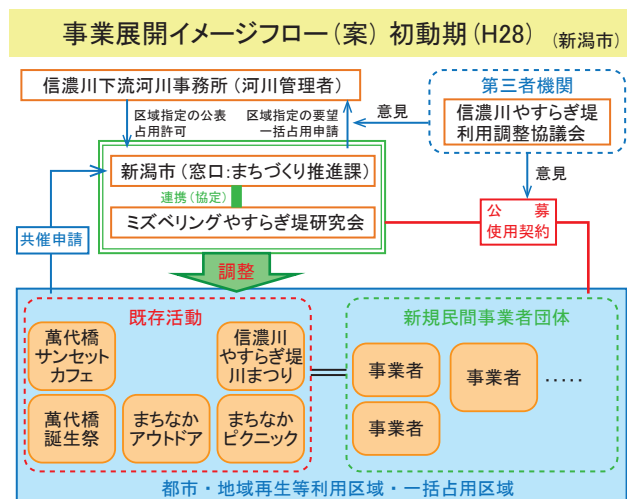


図-2 事業スキーム

(3) 店舗の営業開始に向けて

やすらぎ堤区間のうち、繁華街に近接する萬代橋から直上流の八千代橋までの間を、河川敷地占用許可準則の「都市・地域再生等利用区域」に指定すべく（写真-7）、地域の合意を得るために、官・民・有識者で構成される「信濃川やすらぎ堤利用調整協議会」が立ち上げられる等、行政手続きは円滑に進められました。

一方、課題もありました。新規の出店希望者等の見込みへの対応として、やすらぎ堤のポテンシャルがあっても、何が始まるのか、仕組み・ルール等の周知が不可欠でした。そこで、仕組み等の周知に加え、お客様が集まる見込みがあれば、多数の来客があるという好循環に乗ることを期待して、積極的な広報に取り組みました。

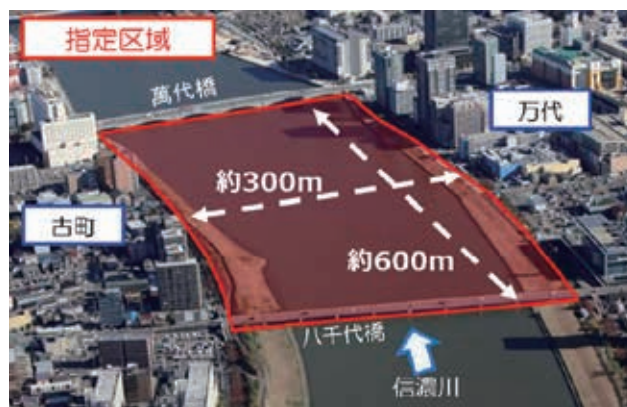


写真-7 やすらぎ堤の都市・地域再生等利用区域

H28.2.25に「都市・地域再生等利用区域」の指定書を、新潟市長に北陸地方整備局河川部長が交付する場を設け（写真-8）、全テレビ局と新聞各紙で報道して頂きました。他にも、イベントや出店者等への募集説明会等も新聞・テレビで報道され、また、その中で、ミズベリングや河川区域の規制緩和の概要が解説されたこともあり、地域の認知度・関心が一気に高まりました。



写真-8 都市・地域再生等利用区域指定書交付式

結果的に、民間事業者の公募（H28.4.28）を受け、12店舗の出店が決まりました。H28.7.2には、民間事業者出店セレモニーが開催され（写真-9）、北陸地整管内“初”となる直轄河川区域での民間事業者出店となり、記念すべき日となりました。

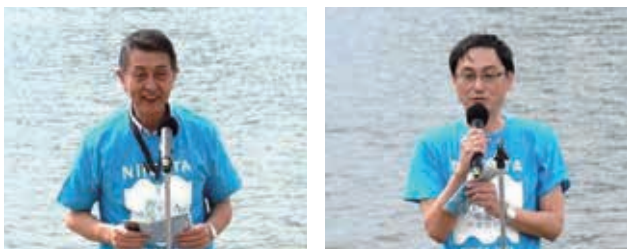


写真-9 祝辞を述べる新潟市長と北陸地方整備局長

4. 新しい水辺づくりの反響 7月2日オープン後の状況

オープン後まもなく、やすらぎ堤では、H28.7.7に世界で一斉「ミズベで乾杯」が企画され、各店舗でのカウントダウンイベントもあり、約500人が集まりました（写真-10）。

また、当日はテレビでも報道され、「ミズベで乾杯」のイベントと併せ、ミズベリング信濃川やすらぎ堤の認知度は更に高まりました。



写真-10 ミズベで乾杯@やすらぎ堤

その後も、店舗毎に雑誌等への広報や婚活イベントとのコラボ等の認知度向上の工夫もあり、ホームページの検索サイトの検索数が上位に位置する店舗も出ています。また、オープン当初は、雨天等の影響で伸び悩んでいた客足も、梅雨が明け、予約で満席となる店舗が出る等、期待していた好循環に乗りつつあります。

8月には、民間事業者の第2次公募が開始され、現在営業中の店舗は居酒屋が中心で、もっと家族で楽しめる店舗やイベントへの期待の声もあります。今後の展開に期待が高まります。

5. おわりに

新潟市長は、「まちの中心にこの大河があるという幸せを実感できるゾーンにしたい。日本一

快適で楽しい水辺ゾーンにしたい。」と期待を示されています。

ここに至るまで、実務的な関係者の辛苦があります。短期間での、民間事業者公募に向けての募集要領作成から選定、出店者との連絡調整、近隣住民への周知、施設の設置・管理方法や食の安全等に関する出店者用マニュアルの作成・周知等です。

また、出店者の多くは、リスクより新潟の発展に寄与したいという志を持つ方々です。初年度の出店ということで、出店者の方々にも初めてづくしで苦労が多いと思います。関係者の熱意・志、そして、これまでの取り組みで得られたノウハウや近隣住民との信頼関係があったればこそ生まれた、「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」です。

やすらぎ堤の活用の取り組みは、その目標である「新潟の更なる魅力・活力の向上」の達成に向け、勢いよく動き出したものの、発展途上です。

新潟市の魅力・活力が益々向上するには、自らの地域の特性・宝を見つめ直し、その活かし方を考え、活動に関わる人達の意識・目標を合わせ、そのために、「ミズベ」に関わる関係者がまさに輪「リング」になって、少しずつ、粘り強く調整をしていくことが重要だと思います。

国土交通省はミズベリングの第一のサポーターです。ミズベリング信濃川やすらぎ堤の益々の発展に向けて、微力ながら尽力したいと思っています。



夏の夜を「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」で楽しむ人々

出典・参考文献)

- 1) 信濃川水系河川整備計画
- 2) 新潟市 HP
- 3) 信濃川下流河川事務所 HP

特集「地域とともに」

第20回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業

(一社)北陸地域づくり協会は、(社)北陸建設弘済会時代の平成7年から、公益事業として「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業制度を創設し、地域活性化に成果が期待できる事業を募集・採択し支援してきました。

今回は平成27、28年度の2年間にわたり進めている共同研究事業を紹介します。

産官学金民連携で地域の課題解決

ーソルガムが拓く地域自立型循環モデルの普及体制の確立に向けてー

信州大学・長野市共同事業

1. はじめに

信州大学では、2008年から地域資源作物としてのソルガムきびの利用と、これによる地域の活性化について研究を続けてきておりました。

ソルガムは、海外ではソルガムと学名で呼ばれ、日本では「タカキビ」や「コーリャン」と呼ばれてきました。実際に地域の中でこの作物が根付いていくためには、様々な取り組みが必要になってきます。そこで、2011年から高山村と共同で検討を開始し、また2013年からは長野市と今回報告させて頂く実用化に向けた共同研究に着手しました。

2. 地域の現状

最初に、長野市の耕作放棄地の現状について調査を行いました。

その結果、長野市の農地の22.7%に当たる1,634haが耕作放棄地であり、そのうち中山間地域が73.0%を占めることが分かりました。このうちの1,000haあまりは原野化しており、すぐには使えない土地でしたが、560ha余りは、少し手を入れるだけで耕作が可能な土地でした。これらの土地の多くは、主に担い手がいなために放棄されているものであるため、地域に雇用を創出する産業の育成が重要であると考えられます。それでは地域での産業起こしに必要なことは何なのでしょう。

ランク	状況概要	割合 (%)	総面積 (ha)
A	草刈程度で耕作可能	14.0	229
B	重機等による基盤整備が必要	20.6	337
C	山林・原野化し復元困難	65.4	1,069
合 計		100	1,634

表1. 長野市の耕作放棄地の現状

3. 耕作放棄地の有効利用のための救世主はあるか？

中山間地では人口の流出と高齢化により多くの耕作地が荒れた状態にあります。地域の担い手が減少する中で、地域の産業を担うような事業展開ができるのかどうかカギを握るものと考えられます。そのような地域の資源があるのでしょうか。都会にはなく、地域に豊富にある資源として考えられるのは、自然、食糧、バイオマス資源などです。日本は、食糧やエネルギーの多くを海外に依存し、そのために多大なお金を支出しています。その全部を国内にとは申しませんが、一部でも戻せたら、地方に元気が与えられるわけです。そのためにはお金になる作物、またその利用法が問われると考えます。また最も大事なものは、担い手不足の中でもいかに省力で生産ができるかも大事な観点でしょう。このような観点で、文献上での調査を行い、以下のような観点から、ソルガムの可能性を見出しました。

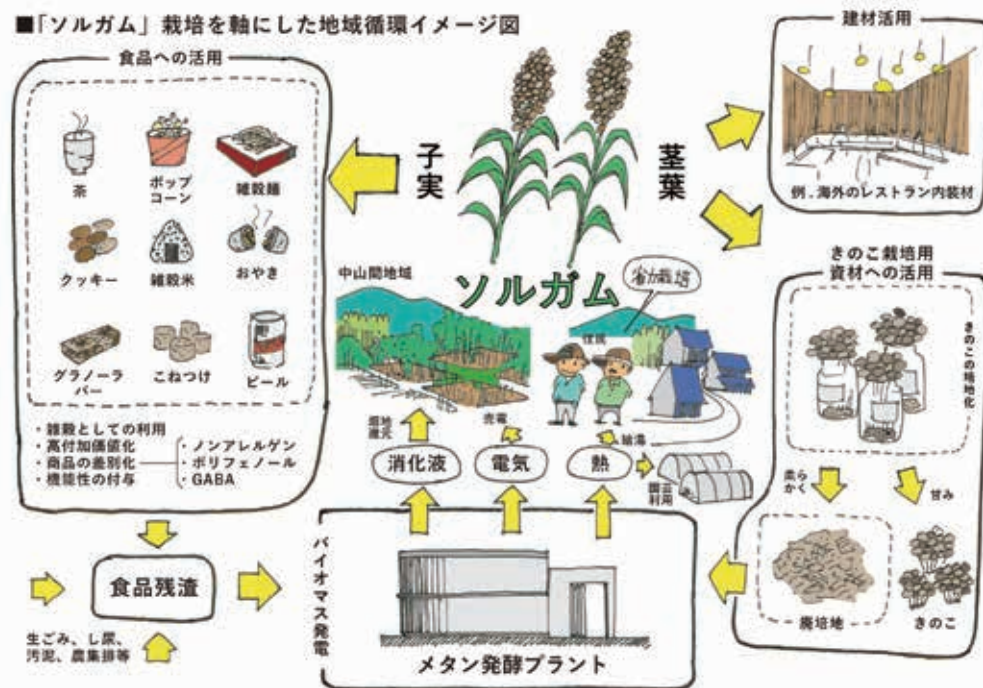


図1. ソルガム活用の循環システムの全体イメージ

4. ソルガムを余すところなく使い尽くす

まずは省力生産の観点です。2016年まで長野市と共同で3年間試験栽培を行ってきました。

その結果、栽培にあたって必要な労力はそれほど大きくないことが分かりました。夫婦二人で栽培するときの労力は、延べで12人・日と見積もりました。これはソルガムが耐乾性の作物であり、初期生育が良い品種においては除草作業が省けることに基づいています。

ただし、イネの栽培のように、収穫などに専用の省力の機械が開発されることが望まれます。背丈の低い品種においては、イネで使用しているバインダーなどの使用が可能なのは確認しています。次いで、生産した収穫物の利用法が問題になります。産業としてしっかり根付くためには、利用していただけてお金になることが必要です。そのために収穫物はすべてを使い尽くす、また使ったものは循環して次の生産に生かす工夫が必要ではないかと考えました。これまでの蓄積から、図1に示すような循環型の利用システムを考案しました。すなわち、実は食物に、茎葉はキノコの培地に、廃培地をメタン発酵によりエネルギーに、多段階の活用が可能であります。また、実にアレルギー物質を

含まず、ポリフェノールなどの高機能性物質が豊富な健康食品としても活用が期待されています。

5. ソルガム健康食品コンペティション

美味しく健康なソルガムの魅力をひろげ、ノンアレルギーで栄養価の高い夢の穀物のさらなる可能性を、未来の子どもたちのために県内の皆さんとともに創造したいと考え、2015年秋に「ソルガム健康食品コンペティション」を開催しました。長野県信州ブランド推進室や(株)東急ハンズ長野店、(株)サークルKサンクスなどの様々な関係企業や行政が参画する実行委員会を組織し、ソルガムの料理や加工食品のアイデアを県内に広く募ったものです。

63作品の応募があり、厳正な一次審査を通過した26作品を集めた「公開試食審査会」を11月26日に本学工学部キャンパスにて開催しましたところ、来場者は200名近くへののぼり、その注目度の高さを改めて実感しました。

長野市の加藤市長の激励で開会し、実行委員長を務めた天野副センター長より本事業概要を説明した後、ホテルインターコンチネンタル東京ベイの佃副総料理長をはじめとする8名の審

査員が各ブースを順にまわる「試食巡回審査」を行いました。同時に来場者の皆さんも投票シール2枚で気に入った作品に投票して頂きました。審査基準は食味だけでなく、地域貢献度やソルガムきびの活用度合い、または商品性や健康志向性など多岐にわたります。それらの採点を即座に集計し、別室審査にて計5点の各賞を決定しました。



図2. 公開試食審査の様子

最優秀賞には、信州大学工学部の原田憲さんの「ソルガムなっとう」が選ばれました。受賞者を中心に、産・官・学・民が連携する商品化へ向けた協議を開始し、幾つかの作品で商品化が実現しつつあります。

「ソルガム健康食品コンペティション」審査結果

最優秀賞

ソルガムなっとう

原田 憲（信州大学工学部学生）

審査員特別賞

ソルガムきび麴 100%味噌

鳥羽 広子（料理教室主宰）

加工食品部門賞

そるもっち

七二会かあさんち

料理部門賞

信州産 ルビーなタルト

濱渦 亮子（信州大学研究室スタッフ）

チャレンジ部門賞

いつかは長野市の地ビールに！ソルガムビール

信州電力（株）



5/26～31日、第9回「大学は美味しい!!」フェア（in 新宿高島屋）でソルガム発泡酒「ソルガムエール」が初お披露目された。（1本400円）

6. 実用化に向けた連携

『ソルガム』のカスケード利用によって、人・産業・エネルギー等の創成や農地・農業の保全を担う多角的な地域自立型循環モデルの開発を、長野市と共同で行ってきました。今後の実用化に当たっては、種々のステークホルダーとの連携が必要となります。そのために、図3のような協議会組織の立ち上げを模索しています。

協議会では、産官学の連携はもとより、民間の方との連携が重要になってきます。そこで本年度は、広く生産者を増やす目的で、以下のように栽培講習会を開催しました。

7. ソルガム栽培講習会（種まき編）

3年目を迎えるソルガムきびの試験栽培ですが、今年度は本格的に耕作放棄地の減少と栽培農家の増加を促すため、初の栽培講習会を6月1日に実施しました。これに先立ち、5月23日には、マルコメ株式会社様の余剰汚泥を活用した、いま話題のYM堆肥を圃場にしっかり撒き、未だ登録農薬のないソルガムならではの、完全有機栽培をめざしています。2015年度は、ミニソルゴーで10アールあたり約400kgの収量を記録しました。



昨年、ソルガムきびの品種の中で一番成育状況が良かったミニソルゴー

今年度は、前年度までと同じ七二会地区で大平という標高九百メートルほどに位置する真っ平らな約三十アールの圃場に舞台を移し試験栽培を行っています。当日は、市内外から約30人の農家や事業者らが集い、計4品種を種まきごんべえや、トラクターで播種を行いました。秋には、収穫編の講習会を実施する予定です。

8. むすびに

信州大学と長野市では、スーパーフード「ソルガムきび」を活用した新たな事業モデルの創出により耕作放棄地の解消、温室効果ガス削減や新たな産業創出を目指し、本調査事業に取り組んでおります。共同研究では、メンバー全員が、前向きな姿勢で「やれることは、全部やる」といった雰囲気の中、事業計画が組み立てられています。また、試験栽培、イベント開催など、地域と一緒に汗を流して密な連携を図る取り組みになってきております。

本調査事業も4年目を迎えるわけですが、信州大学と長野市の共同研究という段階から一歩進めて、経済性を伴った地域の産業に成長させていきたいと考えております。栽培講習会や食品コンペの開催により認知度が飛躍的に向上し、産学官連携事業がよいよ実用化に向けて大きく動きだしました。今後の展開に期待してください。

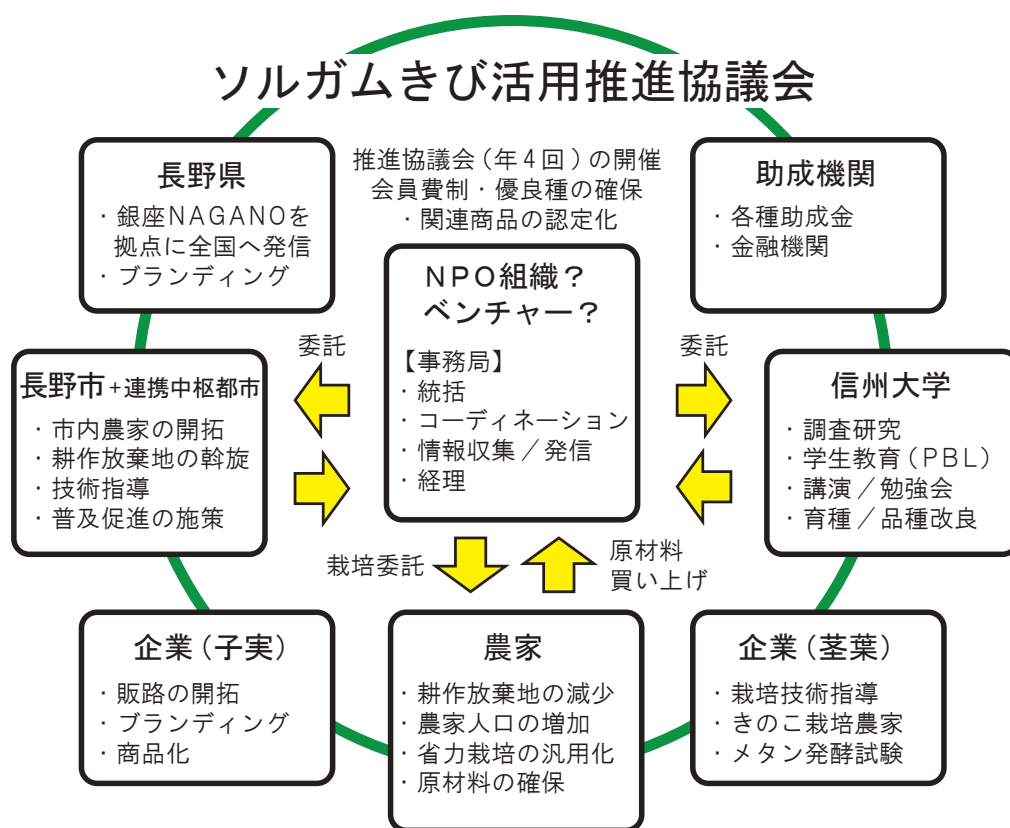


図3. 実用化に向けた組織づくりのイメージ

今年も「ソルガムきび×信州産の食材」をテーマに「ソルガムきび健康食品コンペティション」を開催します。

公開試食審査会

日時：平成28年12月8日(木) 13:30～17:00

会場：信州大学工学部キャンパス

SASTec 3階大会議室

- ▶ 一般の方も参加できます。
- ▶ 詳細は、ホームページでご確認ください。
<http://shinshu-sorghum.com/>

問い合わせ先

信州大学 地域戦略センター 天野 良彦

住所：長野県長野市若里 4-17-1

信州大学工学部キャンパス

電話：026-269-5394

メール：yoamano@shinshu-u.ac.jp

参考ホームページ：

<http://shinshu-sorghum.com/>

山里発 新しい「クニ」づくり NPO 法人 かみえちご山里ファン倶楽部（新潟県上越市）



保育園を改修した里創義塾の学舎はスタッフの手作り



里創義塾でのディスカッション



加工品事業の説明をする松川事務局長（右）

かみえちご山里ファン倶楽部（和瀬田 仙二理事長）は、NPO 法人化当初（2002 年）から、地域住民が理事を務め、外部の若者を雇用しながら集落再生に取り組んでいる。

どんなに素晴らしい地域資源があっても、それに気づき、使う人がいなければ宝物も見過ごされる。人材育成こそがこれからの地域づくりに最も必要なものだと考え、これまで培ってきたノウハウを伝える場として、昨年、「里創義塾」を開校した。現場での具体的な実践を想定した 1 年間のカリキュラムのほか、一般を対象とした短期夏期講習が開講されている。

関原 剛 専務理事の講義から、これまでの活動、地域運営組織形成のヒントを抜粋した。

■ 覚悟を決める

NPO 設立のきっかけは、新潟県第 1 号の NPO 法人である「木と遊ぶ研究所」が、上越市と連携して行った地域の生存技能の伝承に関する調査だった。地域全戸へ配布されたアンケート結果の集計により示された「生存技能レッドデータ」から、地域に伝わる伝統的な生存技能のほとんどが 10 年後に消滅のピークを迎えることが明らかになったのである。それを受けて一番驚いたのは地域住民自身だった。1,000 年の歴史を刻んできた集落の待ったなしの危機に、座して死を待つより、まずじたばたしてみようと覚悟を決めた 80 人が発起人となり、活動がスタートした。

また同じ頃、桑取谷にできることになった上越市の森林公園を地域で自主運営できるような組織を立ち上げれば、管理を委託するという話が市から持ち込まれ、若いスタッフを雇用する素地となった。

■ 感覚を共有できる「クニ」づくり

10 年間の活動を振り返り見えてきたのは、地域では「ここ」「われら」という感覚を共有できるということである。この感覚を地域づくりに重要な範囲を示すものとして再定義し、それを共有しうる村落の集合体を「クニ」と呼ぶことにした。「クニ」は自給的な生存様式を残存させ、自主的な組織と運営能力を持つ自立的なコミュニティである。日本国が減びても、県、市が破綻してもどんなことが起ころうとも「ここ

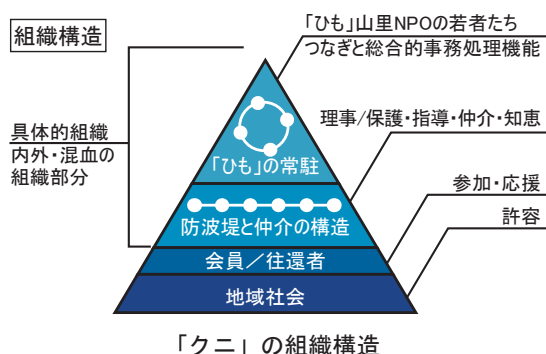
は残る」という覚悟を持ち、国の補助金に安易に頼らず、行政に並立し補完し合うことができる。そのような地域の大きさは、人々が直接会って対話ができるコミュニティ 300 人～500 人ほどと考え、この規模は各地の地域づくり実践者や、研究者の間でも一致している。「里創義塾」の塾長を務め、地元学の提唱者でもある民俗研究家の結城 登美雄氏は、全国の集落を自らの足で歩き続ける中で、「地域で支え合う暮らし」が成り立つのは、かつての村、現在の「大字」の範囲だとしており、やはり同等の人口規模を示している。

このクニの運営を行う中で、かみえちごのような NPO が担うのは「と」の役割である。「個人と個人」、「個人と集落」、「集落と集落」、「都会人とムラびと」、「行政と村落集合体」、「大学などと村落集合体」の関係性を繋ぎながら、地域の民俗、文化、歴史を受け継ぎ、地域の自然、地形、風土を学び、それら地域資源を活かして、時代の要請に合わせた事業を造り出すのである。特に、古い道の往来の衰退により関係性が薄れてしまった集落同士をつなぐスタッフの役割を「数珠のひも」に例え、それぞれの集落が持つ「珠＝資源」を連動させることで数珠としての役割が生きてくると、関原専務は言う。

■ 地域で許容される組織

新しくできた組織はまず、地域社会や既存組織に正しく認識し「許容」してもらうことが重要だ。スタッフは草刈り、清掃、祭りなどの

「結い労働」へ率先して参加し、地域の人と経験を共有し「続ける背中」を見てもらう努力をしている。



このような役割を担うスタッフには基礎体力があることはもちろん、高い事務処理能力や、事業の企画運営能力、組織を継続していく上で、井の中の蛙にならないための外からの視点を継続して持つことなども求められる。

地域おこし協力隊が誕生し、若者が地域で働く機会が増えている。しかし都会で描いていた幻村と移住した実村の違いに悩みを抱いても、支援組織がなく挫折して村を去っていくケースもあり、中間緩衝機能が必要とされている。

かみえちごの場合は、理事会が地域の無理解や誤解から若者を守る防波堤となり、地域で生きる知恵を与え、技術を教え活動しやすい環境をバックアップしている。

集落の行事に参加するため定期的に外から通ってくる「往還者」は、クニに帰属感があり、経済的な支援者や移住者になる場合もあるので重要な「人的資源」といえる。



理事長は「義」、専務理事は「理」の役目だという関原さん。実践に基づく地域づくり論は、人生そのものを考えさせられる哲学がある。

人間本来の学びが残っている中山間地

設立当時からのスタッフ、三浦絵里さんは「地域に入り気づいたことは、森林問題、環境問題など世界規模の問題や、過疎化など現代社会が抱える問題は、それぞれがばらばらなものではなく、それぞれの国や地域が人間としてのくらしのあり方を真剣に考えなくていけないという共通の課題だということがわかった」という。

地域住民からの希望を受け、過疎高齢化が著しい中ノ俣集落の古文書をすべて調べ、集落を取材し「中ノ俣郷土史」を3年かけてまとめた。このような地域での地道な活動は住民との信頼

関係を築くことにつながり、新しい高齢者予防福祉事業も始まっている。お茶飲み、冬場の買い物代行、給食会などを通して独居鬱や栄養偏差を防ぎ、本来地域が持つ支え合い、見守り合いによる「福祉のまかない」の力を発揮しようというものだ。

例えば要介護3になる時間を都市部より5年遅らせることができれば、60人の村では単純計算で300年分、約7億円の介護保険料の節約になる。市街地までの除雪費がかかるから冬場はまちに住んだらどうかという話もあるが、5年間にかかる除雪費は4,000万円と、介護費用の圧縮によるコスト削減分の比ではない。



桑取谷の奥から峠を一つ越えた谷に位置する中ノ俣集落。冬は3mの積雪に覆われる。

今春、里創義塾を卒業しスタッフとして働き始めた河野充美さんは、子ども里神楽に関わっている。「地域の人との交流は楽しいが、農業は時期があるから段取りが大変」と言いながら、にこにこ集落のおばさんから習った料理で受講生をもてなしてくれた。

関原さんは、「この地域の未来を信じていない大人がまだいるが、『過疎』と呼ばれている地域にこそ、人間本来の学びが残っている。自然と接し五感を磨き、皆で助け合って生きることができる」とこの地域の素晴らしさを中学生に説いている。

「いま・ここ」にあるものを組み合わせ、自分たちでつくり出すことを「ブリコラージュ」と言うそうだ。「里創義塾」で学んだ人達が、地域に戻り「ブリコラージュ」すれば、個性あふれる素晴らしい「クニ」が日本全国に生まれるだろう。いや、既に、昨年夏期講習で学んだ佐藤裕美さん（宮城県登米市）は、今年は地域の家庭料理を一堂に集めた「食の文化祭」を実施し、写真集をみやげに参加していた。

取材協力

NPO 法人かみえちご山里ファン倶楽部

新潟県上越市大字増沢 962-1
電話 025-541-2602
HP <http://kamiechigo.jp/>

会員数： 約 300 名
理事： 11 名
常勤スタッフ： 9 名
集落数： 25



古民家をボランティアの協力で再生した「平左衛門カフェ」

【講義資料】

- ①『「クニ」組織の発生とその価値 近未来・上越市の素描』
- ②『渚の思考』

素材の味を引き立てる会津山塩（福島県北塩原村）

大塩裏磐梯温泉の源泉水を煮詰めてつくられる山塩。ミネラル成分をたっぷり含み、素材の味を引き立てる。専売制度廃止後、村の特産品として、昔ながらの製法で生産が再開された。



製塩所



会津山塩をトッピングした塩パン



40g 瓶



その後、2日間ほど空気にさらし自然乾燥させる。結晶から、不純物を取り除き山塩が完成する。

▼会津山塩は、平釜製法でつくられる。



源泉からくみ上げた温泉水を4つの薪釜に入れ、約1～2日かけて煮詰め、食塩泉の水分を蒸発させ塩分濃度10%の塩水を作る。



一晩おき、さらに煮詰め、塩分を20%にする。

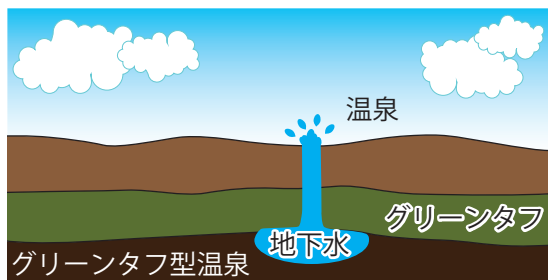


さらに一晩おき、丸釜で煮詰め、結晶になった山塩をざるですくう。

■会津藩御用塩だった山塩

海のない場所では古くから、温泉から塩をつくり利用されてきた。磐梯山の北麓、裏磐梯高原と喜多方の間に位置する大塩裏磐梯温泉は、おおいおうらばんだい「グリーンタフ」（日本語訳「緑色凝灰岩」）と呼ばれる地層に閉じ込められた太古の海水の成分が、高温の地下水に溶け出して源泉になった。

約1,200年前、この地を訪れた弘法大師が塩に苦勞している村人の様子を見て、護摩を焚き、食塩泉を湧出させたという開湯伝説がある。



出典：東濃地科学センター「もぐら博士の地下研究室」

現在、国道459号、大塩川沿いに温泉旅館が点在するが、江戸末期まで、もっぱら塩をつくるための温泉として利用されていた。会津藩御用塩として納められ、文化2(1805)年には、7,698俵(404t)製造されたという記録が残っている。

明治に入り会津山塩会社が創立されたが、火災で資金が調達できず解散。さらに1905(明治38)年に塩の専売制度が創設され、第二次世界大戦の物資不足時、陸軍が製塩した時期を除き、山塩の生産は途絶えていた。

■特産品として復活

21世紀に入り、北塩原村では、商工会が中心となり村おこし事業として特産品づくりに取り組んでいた。その中で、1997(平成9)年に専売制度が廃止された塩が候補に上がった。

かつて献上品として高い品質を保っていた「会津山塩」を復活させようと、2005(平成17)年、

試験製造が始まった。2007年には、12名の出資者により「会津山塩企業組合」を設立し、昔ながらの平釜製法で製造が始まった。

「二度の大火で村にあった記録が焼失していたので、会津若松市の資料館、只見町の山塩資料館にある資料調べから始まった。

次に山塩をつくっている長野県大鹿村、海塩づくりをしている能登（珠洲市）、笹川流れ（村上市）を見学し試験製造を行った。全国的にも珍しい山塩づくりは、組合設立後も煙突の形を変えるなど思考錯誤を重ね、現在に至っている」と代表理事を務める栗城光宏さん（44）は語る。



「会津山塩はどんな料理に合うのか家で試しています」と語る栗城さん

■ 山塩の特徴を活かした新商品

現在、5人のスタッフが塩づくりに携わっている。工程の全てが手作業なので、年間に製造される山塩は約2トン。また、100リットルの温泉からつくられる量は1kgと稀少だ。

海塩に比べ塩化ナトリウムが少ないが、カルシウム、マグネシウム、カリウムといったミネラルが豊富で、この成分の違いが、味に現れる。

山塩と海塩の主成分比較

	会津山塩	海塩
原材料	温泉水	海水
製造方法	薪釜で煮詰める	濃縮して煮詰める
塩化ナトリウム	77.76%	90.05%
カルシウム	2.19%	0.29%
マグネシウム	0.43%	0.29%
カリウム	0.42%	0.08%
1リットル中の塩分	16.5 g	23 g

出典：会津山塩企業組合ホームページ
<http://aizu-yamajio.com/yamajio/>

温泉宿では、山塩は素材の風味を活かした料理が提供できると好評だという。

組合でも、山塩を使った商品を開発しようと、スープのレシピを募集し、「会津山塩ラーメン」が誕生した。今では地域の味として定着している。

基準どおり山塩が使われた商品は認定商品として登録されているが、現在、52点ある。その中の一つ、会津山塩を使ったパンが話題を集めている。

ベーカリー&カフェ コパンの木村 恵美さんは、「会津の良い食材を使ったパンやお菓子をつくりたい」とこれまでも、会津地域の菜種油やみそを使った「びすこっつい」などを販売してきた。

「昨年、粒餡のあんパンを販売する際に、『会津山塩』を使った餡にしようと決めました。餡の甘味がはっきりと感じられるのに甘過ぎずおいしいと人気があります。『会津山塩パン』は、塩がパンに絡み、口の中で絶妙な味となり、当店売上げナンバーワンです」。

塩への関心が高まり、会津山塩の独特の味が口コミで広まり、海塩の4～5倍の価格にもかかわらず、在庫切れが相次ぐ。

「12月に新しい製塩所に移り、体制を強化し、年間約4トンの生産を見込んでいる。敷地内に直売所を設け、見学コースを整備する。壮大な時間を超え生まれる山塩の神秘、先人たちの想いを学び、その奥深い魅力を知っていただける場にしたい」と話す栗城さんは、まさに手塩にかけ育てた子どもの成長を楽しみに見守る親のようだった。



山塩が餡の味を引き立てる「会津山塩あんパン」

取材協力

会津山塩企業組合
 福島県耶麻郡北塩原村大字
 大塩字立岩 6106
 電話：0241-33-2340
 （新製塩所）
 福島県耶麻郡北塩原村
 大字大塩字太田



会津山塩承認店
ベーカリー&カフェ コパン
 福島県会津若松市一箕町
 亀賀字北柳原 52
 電話：0242-93-7566



伝 言 板

(一社)北陸地域づくり協会が主催、共催、後援等で行う一般参加型事業です。
お時間をみつけ、ぜひお立寄りください。

イベント名	期 日	開催地・会場等	内 容	問合せ先
信濃川・大河津分水 写真コンテスト	応募締切 10月14日(金) ※ジュニア部 門が2015年に 新設されまし た		母なる大地越後平野に恵みをも たらず信濃川、治水の要として 暮らしを守る大河津分水の魅力 を身近に感じられる写真を募集 【審査発表】11月初旬 【表彰式】12月初旬 【展示会】12月～3月	北陸地方整備局 信濃川河川事務所 総務課 TEL:0258-32-3020
第27回 土木フェスティバル ～たのしく知ろう どぼくのいろいろ～	10月16日(日) 9:30～16:30	長岡市 国営越後丘陵 公園	①除雪車、バックホウ、リフト車、 土砂災害体験装置等の展示 ②土木事業の効果や土木施設し くみを解説したパネル・模型展示	長岡市 土木部 土木政策調整課 TEL:0258-39-2307
第23回 大里峠越交流会	10月16日(日)	新潟・山形県 を結ぶ旧越後 米沢街道十三 峠の一つ「大 里峠」	旧街道を歩き往時を偲び、周辺 の豊かな自然環境や歴史とふれ あう。大里鍋を囲んでの交流会	小国町 地域整備課 TEL:0238-62-2431 【申込締切】 10月11日
平成28年度 建設分野の新技术 ・新工法の報告会 「建設技術報告会」	10月19日(水) 9:30～16:40	金沢市 金沢市文化 ホール	【技術報告】9:50～15:15 【基調講演】15:25～16:25 「ICT建機による建設現場の 新しい生産性向上方法」 四家 千佳史 氏 (コマツ執行役員)	北陸地方建設事業 推進協議会 平成28年度「建設技 術報告会」実行委員 会(北陸技術事務所) TEL:025-231-1281 FAX:025-231-1283
第15回 応用生態工学会 北信越現地ワーク ショップ in 新潟 越後平野の生物多様 性保全・再生への取 組みと今後の課題	10月28日(金) 9:30～17:00	新潟市 新潟日報 メディアシップ	【基調講演】 「河道掘削を川の再生に活かす！ -河道内陸域環境の分析・評価・ 予測方法を巡って-」 萱場 祐一氏 (土木研究所 上席研究員) 【一般講演】8題	応用生態工学会 新潟事務局 (株)建設技術研究所 北陸支社内) TEL:025-245-3883 【申込締切】 10月14日
第25回 全国川サミット in 喜多方	11月5日(土)	喜多方市 喜多方プラザ 文化センター 大ホール	【事例発表】 塩川小学校、駒形小学校 【記念講演】 なすび氏	喜多方市 建設部 建設課 TEL:0241-24-5240

編集後記

「里創義塾」で、結城登美雄塾長から「先人たちが、どの
ようにして己が生きてきたと暮らしをよくしようと努力してきたのか、この
土地を生きてきた人びとから学び、都市とくらべた「ないものねだり」
から、この土地にある楽しく生きるための「あるもの探し」への発
想の転換が重要だ」など、地元学の基礎を同った。

その理念を基に、一過性の活動ではなく、過去と未来をつな
ぐ現時点で、ここに生きる、われらができる最善の方法をいっしょ
に考え、行動しているNPOの姿を見た。この土地、人への深い
愛情を持った活動は、見失ってきた都市と農村の関係を再考し、
新しい価値感で学習・交流する場を創出していた。(事務局)

地域づくり in ほくりく 第11号

発行 平成28年10月1日
編集 一般社団法人 北陸地域づくり協会
〒950-0197
新潟市江南区亀田工業団地二丁目3番4号
電話 (025) 381-1160
FAX (025) 383-1205
HP: <http://www2.hokurikutei.or.jp>